

News Letter Vol.3 No.5

平成9年7月25日 発行

発行人 花嶋 正孝

事務局 日本技術開発(株)

〒164 東京都中野区本町5-33-11
中野清水ビル

TEL 03-5385-5111 FAX 03-5385-8515

LS研ニュースレター

最終処分場技術システム研究会



新生LS研誕生

最終処分場技術システム研究会

代表 花嶋 正孝

(福岡大学工学部教授)

平成9年5月20日、ベイヒルトンホテルの会場
で新生LS研が誕生したことは誠に喜ばしいこと
である。

LS研が平成6年5月に呱呱の声をあげて以来3
年、私には奇跡としか思えないような熱心さで、
4研究グループの16分科会による4,000頁に及ぶ
報告書ができあがった。その情熱が何処にあるの
であろうか。

平成5年6月のジオコンファインの国際会議で、
フランスのモンペリエに一週間程滞在した時のあ
る日の午後、ホテルのテラスで現在システム統合
部会委員長である古市先生との話し合いから始ま
った。最終処分場への関係者の認識の浅さと企業
単位の縦割の弊害等、このまま放置すれば最終処
分場に対する社会の風当りは益々悪い方へ向うの
ではないかという懸念を抱いた。そこでこれを何
とかしなければと、日本に帰って最終処分に関係
する人々(現在のLS研幹事団)と相談の上、会を
結成することを決めた。始めはコンサル、コント
ラクター等20社も集まればと思っていたが、募集

を開始したところ、シートメーカーを先頭に水処
理メーカー、コンサルタントとコントラクターが
102社も集まった。

この会は、最終処分場を世間に十分認識しても
らうため4つの業種が集まり、それぞれ得意の技
術を出し合って縦糸、横糸を織り成して、新しい
処分場技術を研究会として創造することにあると
の理念のもとに出発した。皆が手弁当で技術と資
金を出し合い、汗をかくことをモットーにして今
日の成果を得た。

今後は、この成果を世に広くひろめるためにハ
ンドブックを作ることを目標に、もう一汗かいて
もらうことと、この組織の社会的認知に応じて、
社会奉仕をするために今後3年間の継続を皆で決
意した。また、今年の6月には北九州の響灘に、
資源循環・環境制御システム研究所が開設される
ようになる。この会を支える支柱ができたことも
喜ばしいことである。これからは社会から認めら
れる処分場建設のために、皆で力を合わせようで
はないか。



討論会概括と

これからの3年間へ想い

最終処分場技術システム研究会

副代表 田中 信寿

(北海道大学大学院教授)

平成9年度定時総会後に、“地域に受け入れら
れる最終処分場を目指して”と題して討論会

(15:15~18:40)がもたれた。まず、花嶋代表
から、基調講演「最終処分場との係わり30数年の

歴史」を、多くの写真などを見せていただきながら拝聴した。廃棄物研究の難しさ、微妙さ、そして面白さがよく伝わってきた。続いて、私が、「今後望まれる技術開発と研究動向」として、埋立地設計の基本思想として、環境リスクを最小にするための最高技術の提供が必要であることを強調した。

古市副代表（システム計画研究グループ）は、埋立地計画へのリスク概念の導入について話し、ごみ問題が工学、科学、経済学、社会学につながる課題であり、廃棄物管理システム全体の場の設定、ごみの流れ、計画の流れを意識した取り組みの重要性を話した。

樋口リーダー（設計研究グループ）は、埋立地の機能の変遷、日本の埋立地の実態、跡地利用としての浸出水処理水によるビオトープの形成など幅広く、埋立処分場の理論的整理・方向付けを行っていることを話した。

押方リーダー（施工研究グループ）は、特に、遮水工に係る技術基準の強化・設計施工法の確立と

施工の品質保証制度の創設（材料規格と資格制度）について強調し、遮水工からの漏水量の算定結果について話した。

堀井リーダー（維持管理研究グループ）は、住民の不安要素である漏水、水質、ダイオキシンを念頭に置いて、搬入管理、埋立作業管理、モニタリングシステムに取り組んできたことを話し、情報公開型・生態保護型・リサイクル型埋立地を提唱した。

この後、フロアーから意見をいただいて、埋立地から流出するダイオキシンの現状と制御目標とその可能性、遮水工設計と制御すべき漏出量、大震災への対応と埋立地構造物の耐震設計、埋立地にかかるコストなどについて討論を行った。

この3年間で相当の進歩が会員諸氏の奮闘で得られたことに感謝したい。これを具体的な形で世に問い、普及させることことが、埋立地設計技術を飛躍させることになるし、忙しい仕事の時間を割いて努力してくれた会員に報いる道である。ただそのことを念じて次の3年間で奮闘したい。



新LS研のシステム 統合部会活動について

最終処分場技術システム研究会

副代表 古市 徹

（北海道大学大学院教授）

第一期のLS研が、3年間の活動を終え、一応の成果として約4,000ページの報告書が、無事まとめられました。まず、各分科会の主査及びメンバーの方々の多大なご努力と情熱に敬意を表したいと思います。しかし振り返って、LS研の設立趣意書に記された、「・・・機能を支えるハードとしての技術とソフトとしてのシステムを有機的に結びつけた技術システムとして、処分場のトータルシステム化・・・」については、まだまだ充分でなく残された課題は多く、新LS研の今後の活動に期待されるところ大ではないでしょうか。

先日の総会で報告されましたように、新LS研の経常的研究については、残された課題及び新しい課題について継続的に研究を行うために、研究計画をシステム統合部会を中心として検討することになりました。その一環として、研究テーマ及びシステム統合部会員の公募がなされましたことは、既に事務局からのご案内でご承知のことと思

います。これは、第一期の活動の経験と反省にたつて、プロフェッショナルな視点から優先順位の高い課題を選定し、社会的使命感と技術者としてのプライドを持っている人に、解決のためにより情熱的に取り組んでいただけるようにするためです。

システム統合部会では、開発された要素技術が有効に活用されることが重要と考え、トータルシステムの観点から研究計画を組み立てたいと思っています。計画、設計、施工、維持管理の4つの研究グループの研究課題が、如何にシステムとして有機的に結びつけられるかが鍵となるでしょう。社会的価値観、法制度等が今大きく変わろうとしているこの時期に、我々技術者にはしなやかなシステムを生み出す思考が要求されています。

メンバーの皆様方との自発的な活発な研究活動を通じて、新LS研の更なる発展を祈念いたしております。



最終処分場技術システム研究会の平成9年度定時総会が5月20日(火)、総会後討論会が東京ベイヒルトンにて開催された。また、21日(水)に平成8年度の研究発表会が同会場にて開催された。

今年からの試みとしてポスターセッションも実施された。

総会の議案は次の通りである。

第1号議案

平成8年度活動報告および収支決算報告

第2号議案

役員の一部改選

第3号議案

平成9年度活動計画及び収支予算

第4号議案

会則変更

報告事項

退会会員

各議案とも満場一致で採決された。

役員(平成9年度)

役員の一部改選が行われ平成9年度の役員が次の通り決まった。

代表 花嶋 正孝

副代表 田中 信壽

副代表 古市 徹

専門部会幹事

コンサルタント部会 樋口壯太郎

建設部会 小谷 克己(新)

シャ水工部会 加納 光(新)

水処理部会 伊藤 三郎

なお、7月1日に行われた幹事会及びシステム統合部会で新しいグループリーダーが決定した。

計画グループ リーダー 福本 二也

サブリーダー 西川 光善

設計グループ リーダー 小谷 克己

サブリーダー 宇佐見貞彦

施工グループ リーダー 浦 光彦

サブリーダー 川口 光雄

維持管理グループ リーダー 堀井 安雄

サブリーダー 高木 泰

各グループに於いて実施される研究テーマについては、後日会員に連絡される。

専門部会幹事抱負

新らたな3年間に向かって

コンサルタント部会幹事 樋口 壯太郎

LS研が発足して、はや3年が経過し、内容に課題が残るものの何とか報告書を完成させることができました。

過去3年間の活動成果をコンサルタントの立場から自己評価すると、計画、設計、施工、維持管理の一連の流れの中で日常の業務を整理できたこと、他業種の方々との交流によりフィールドでの問題点を認識できたこと、また何より大きな成果は102社の共同とはいえ、通常、自ら実験や調査を行う機会が少ないコンサルタントが社会に対して胸を張って提示できる貴重な実験データを保有することができたことだと思います。

一方で、全員参加の活動方針の中で一部の方に大変な労力を強いたことは大いに反省しているところです。

ところで、これからの3年間を考えた場合、廃掃法改正、最終処分基準改訂、ダイオキシンガイドライン改訂など最終処分場をとりまく環境が激動していく中、これらの社会情勢やニーズに対応できる新しい技術の開発が望まれています。

このような背景を考えた場合、新LS研として取り組むテーマは山積みされており、この分野のオピニオンリーダーとなれるよう、LS研をますます活性化させていきたいと考えています。

LS研究会活動の反省記

建設部会幹事 小谷 克己

平成9年から山岡氏(当時大林組、現在東興建設に所属)に代って建設部会の幹事をお引受けし

た。建設会社の使命は設計図書のとおり施工することにあるが、内容をよく理解しないで工事を
行い失敗したものも多いと聞いている。このよう
なわけで、LS研究会には最終処分場の工事獲得と
正しい施工に役立てるために参加した会社が多い
と思う。しかし、3年間のLS研究会を通して、最
終処分場のあり方、適地選定、設計法、シャ水工
法、処分場の施工および維持管理などが研究され
た結果、施工のむずかしさも再認識することにな
った。今後3年で建設部会はLS研究会の成果を
現場技術者に理解していただく集会を増やし、
会員会社のPRに努めるとともに、施工業者から
の要望も提出し、社会から喜ばれる最終処分場の
建設に努めたい。関係者の絶大な御支援をお願い
します。

シートからシャ水システムへ

シャ水工部会幹事 加納 光

LS研（最終処分場技術システム研究会）が「最
終処分場技術のトータルシステム化」をめざし、
3カ年（H6-8）の研究活動により、当初の成果を
修められ、まず会員皆様のご努力に対して敬意を
表したいと思えます。シャ水工部会としてはシャ
水シートのみ話題集中することがやっとなシャ水
システムとして議論されるようになってきたこと
、具体的には全ての外力をシャ水シートが担う
のではなく、設計段階で基盤から保護層まで全体
のシステムで担うことを考慮し、更に維持管理に
よって機能維持していく有るべき姿が明らかにさ
れたことは今回の成果と考えております。これか
らの3カ年間（H9-11）、実際の最終処分場への
成果のフィードバック活動と今回新たに課題とし
てあげられたものの検討に対し、シャ水工部会は
積極的なLS研への協力体制でもって対応してい
く所存であります。今後とも皆様の御支援の程宜
しくお願い致します。

さらなる技術の飛躍をめざして

水処理部会幹事 伊藤 三郎

研究会活動は、第2ステージに入り、水処理部
会に加入する会員会社もLS研発足時9社だった
のが、現在14社に増えています。第1ステージと
しての3年間は満足のいく研究成果を上げること

ができ、会員の皆さんにとって、この成果が今後
おおいに役立つと思えます。

LS研発足時と現在も、相変わらず最終処分場を
取り巻く環境はきびしく、今後も引き続き住民や
施主などの不安を取り除くために、多くの課題に
立ち向って地道な研究活動を会員の皆さんと続け
ていきたいと思えます。

浸出水処理では現在未規制となっている無機塩
類、ダイオキシン類の除去技術をはじめ、規制物
質であってもさらに高度な除去技術の調査、研究
を続けていく必要があります。

会員の皆さんは日常の業務を持ち、LS研活動
と両立させていくのが大変かと思えますが、目標
達成のため今後もかじ取りをしていきたいと考え
ております。

▶ 会 員

退会会員 東拓工業（株）

フジモリ産業（株）

以上により平成9年5月31日時点での会員数は
次の通り。

学識会員	4名	
コンサルタント部会		19社
建設部会		23社
シャ水工部会		43社
水処理部会		14社
合計	4名	99社

▶ 編集後記

今年の総会、検討会及び研究発表会も例年以上
に盛会でした。昨年から国や自治体の関係者の
方々にも出席していただくようになり今年も40人
以上の方に出席いただけました。結局出席者は
250人を越え広い会場が熱気に包まれていました。

本号の挨拶にもたびたび出てきましたが、LS
研も新たな目標に向かって更に研究を進めること
になりました。研究期間は3年間です。平成6年
に始まった前3カ年の研究は、4,000頁にもものぼる
大作となって報告書の形でまとまりました。今後
3年間はこの成果を世の中に広く役立てて貰うこ
とができるようハンドブックの作成や更なる新た
な課題に向かって研究を進めなければなりません。
よりよい処分場のあり方を目指して頑張りた
いものですね。（三崎）

最終処分場技術システム研究会会員名簿

平成9年5月31日現在

●学識経験者●

花嶋 正孝
田中 信寿
古市 徹
今泉 繁良

●コンサルタント部会●

アジア航測(株)
(株)エックス都市研究所
(株)エンバーテック
応用地質(株)
(株)オストランド
オリジナル設計(株)
(株)環境技研コンサルタント
(株)環境建設エンジニアリング
(株)協和コンサルタンツ
(株)建設技術研究所
国際航業(株)
(株)シアテック
(株)総合エンジニアリング
東和科学(株)
日本技術開発(株)
パシフィックコンサルタンツ(株)
(株)パスコ
復建調査設計(株)
八千代エンジニアリング(株)

●建設部会●

(株)新井組
(株)大林組
(株)奥村組
鹿島建設(株)
(株)熊谷組
五洋建設(株)
佐藤工業(株)
清水建設(株)
住友建設(株)
大成建設(株)

大日本土木(株)
(株)竹中土木
東亜建設工業(株)
東急建設(株)
戸田建設(株)
飛鳥建設(株)
西松建設(株)
日本国土開発(株)
(株)間組
(株)福田組
(株)フジタ
不動建設(株)
前田建設工業(株)

●しゃ水工部会●

旭化成工業(株)
(株)アサヒコーポレーション
(株)イーテック
宇部興産(株)
カネボウ化成(株)
カーボフォル・ジャパン(株)
協和発酵工業(株)
(株)クラレ
山水産業(株)
シーアイ化成(株)
シバタ工業(株)
住友ゴム工業(株)
西部ポリマ化成(株)
清水化成品工業(株)
ダイニック(株)
太陽工業(株)
太洋興業(株)
タキロン(株)
(株)タツノ化学
(株)田中
チッソ(株)
筒中シート防水(株)
帝人(株)
東洋ゴム工業(株)

東洋紡績(株)
東レ(株)
日ケミ商事(株)
日建工学(株)
日商岩井ベントナイト(株)
日新工業(株)
日本ゼオン(株)
長谷川化学工業(株)
バンドー化学(株)
日立電線(株)
藤森産業(株)
(株)ブリヂストン
(株)豊順洋行
三井石化産資(株)
三菱化学MKV(株)
三星産業(株)
三ツ星ベルト(株)
ユニチカ(株)
横浜ゴム(株)

●水処理部会●

浅野工事(株)
エス・ケー・エンジニアリング(株)
(株)荏原製作所
(株)クボタ
栗田工業(株)
神鋼パンテック(株)
新日本製鐵(株)
住友重機械工業(株)
(株)タクマ
(株)西原環境衛生研究所
日本ガイシ(株)
日立プラント建設(株)
扶桑建設工業(株)
三菱化工機(株)

合計 4名・99社